

被災状況	
<p>死者：8,778人（男性3,929人、女性4,847人、性別不明2人） 負傷者：22,303人 家屋被害：全壊508,168戸 半壊283,077戸 (6/9 19:00)</p>	
被災された方々の健康状態／支援ニーズ	
<ul style="list-style-type: none"> 崩壊したプライマリーヘルスケアサービスの復旧、病院から退院した患者へのリハビリテーションの支援、モンスーン季節のための準備のニーズがある。 	
衛生管理・感染予防	
<ul style="list-style-type: none"> 密集地域や水・衛生システムが崩壊している地域では、モンスーン季節が到来するために、感染症や呼吸器疾患のアウトブレイクのリスクが特に問題である。 566,671人に衛生キットを提供し、そのうち66,172人が衛生行動を向上するための石鹸を、69,432人が個人衛生促進活動を受け取った。 2,900の長期残効型の蚊帳を Sindhupalchok に配布した。 	
リハビリテーション	
<ul style="list-style-type: none"> 健康非常事態管理センターによると、負傷した1,000から1,500人に継続したナーシングケアとリハビリテーションケアが必要である。長期間のリハビリテーション支援を必要とする負傷者の70%は骨折に関係している。脊髄骨折あるいは脊髄損傷の患者が多い。 	
女性と子どもの健康	
<ul style="list-style-type: none"> 妊婦、褥婦、新生児、5歳未満の子どものために15のシェルターホームを設立した。 Sindhuliでは、女性と子ども事務所のリーダーシップのもと、妊婦と授乳中の女性のために、dignityキットと毛布を配布し、同時に女性に性差暴力のオリエンテーションを提供している。 	
栄養	
<ul style="list-style-type: none"> 新生児や乳幼児の母親や家族に対する適切な栄養の支援を含む、急性栄養失調や微量栄養素欠乏の治療や予防のプログラムへのアクセスを確実にすることが必要である。 現時点までに、13,245人の子どもに上腕周囲径を使用したスクリーニングが実施された。急性栄養失調と判断された子供たちは14郡の33の外来患者治療プログラムに紹介されている。 	
被災された方々の生活状況	
食糧・水・衛生	
<ul style="list-style-type: none"> 被災地域で食の安全が低下しており、特に山岳部で懸念されている。山岳部では70%近くの世帯の食糧摂取量が少なく、半数近くは食の多様性が乏しい(5/29～)。 食糧配給に関してヘリコプターや徒歩でしか行くことできない多くの地域へのアクセスが課題である。モンスーン季節の到来によりさらにアクセスは困難になることが予測される。 100万人以上に緊急水支援、緊急トイレ支援が必要である。道路の瓦礫のために到達困難な地域とされている、Dhadingの7つ、Dolkahaの11の村落開発委員会全てに未だアクセスできていない。 	
生活環境	
<ul style="list-style-type: none"> モンスーン季節への対応のため、サイトの特に排水設備の改善が重要である。 民間組織により自主サイトの運営は向上したが、サイト支援活動のために追加のサイトマネジメント職が必要である。 モンスーン季節を前に、安全な取り壊しと瓦礫管理の確保の優先順位が高い状況が続いている。 	

必要な救援物資と配布状況

- ・ 35,000 家族の支援のために支援緊急シェルターと約7万の防水シート、125,000 家族を支援するために耐久性のあるシェルターと長期的なレジリエンスを保証するためのトレーニングや技術アシスタントと、トタン屋根シートや現金支給といった自立復興支援が必要である。
- ・ 到達できていない山岳地帯の村のコミュニティに優先的にシェルターの配布が必要である。

生計/仕事

- ・ 6 郡 (Sindhupalchowk, Nuwakot, Dhading, Gorkha, Rasuwa, Dolakha) の約 236,000 の農業世帯が被害を受けた (5/29～)。6 郡の農家に米 31,000 袋、穀物貯蔵用袋 16,000 個、飼料 12,650 パッケージを配布した。
- ・ Sindhupalchowk で 551 の家が査定され、安全な瓦礫除去が cash for work プログラムとして開始された。しかし、cash for work 活動へのガイドラインは政府の許可が未だでていない状況である。
- ・ Saankhu 村では、60 名のボランティアが健康的で安全な瓦礫管理のトレーニングを受けた。

女性と子どもの安全

- ・ Kamri 地方の警察によると、仮設サイトの子どもの些細な犯罪の増加がある。類似したケースの予防や対応の社会的サービスの強化と、若者や子どもたちへのサービスを増加する必要がある。
- ・ ネパール政府の女性と子供と社会福祉省の管轄下の委員会は、保護者がいない子どもや家族と離れた子どもたちの児童保護に関するデータを管理するために、地区レベルで情報管理デスクを確立する予定である。

子供の教育

- ・ 36,107 近くの教室が倒壊または全壊したために使用できず、1 万人の子供たちに影響を及ぼしている。16,883 の教室が一部損壊した。計 7,800 校の校舎の安全性の調査がまだできていない。
- ・ 現在、16 郡で稼働している計 235 か所の仮設学習センターにあわせて、先週、100 の仮設学習センターを設立し、235,000 人以上の被災した子ども達に貢献している。
- ・ 教育クラスタと政府パートナーは、教員が学校へ戻ることを管理するガイダンス、子どもの安全確保、急性ストレス体験をした児童を支援するために体系的な活動ができるように、教員活動 Book を開発した。

保健・医療サービスの状況

- ・ 合計 38 か国から 128 チームの海外医療チームが様々な被災地へ配置された。現在 25 の海外医療チームが活動している (ネパール政府)。

ロジスティック

- ・ 主要道路の地震後のアセスメントが行われた。ポーターが使う道や地方コミュニティ、再開された市場へのアクセスの安全確認が継続されている。
- ・ 物資の通関のためには、物資を配布する郡の郡事務所長が解除レターを提供することが必要である。人道支援パートナーは、予定通りに物資を配給するため、適切な文書の処理を確認することが必要である。
- ・ トタン屋根を含むシェルターアイテムの輸入への課題がある。
- ・ 物資の保管場所の制限により、カトマンズあるいは周辺に物資をまず保管している。これにより、支援物資の流入が複雑になり、混雑の潜在的な原因となっている。

ネパール地震 2015年6月2日(火)～6月9日(火)

※ これらの情報は、主に UNOCHA の Situation Report からまとめています。

【引用文献】

UNOCHA

United Nations Office for the Coordination of Humanitarian Affairs and Office of the Resident and Humanitarian Coordinator in Nepal. Nepal: Earthquake 2015 Situation Report

No.20 (as of 3 June 2015)

<http://reliefweb.int/report/nepal/nepal-earthquake-2015-situation-report-no20-3-june-2015>

ネパール政府

Update of Ministry of Home Affairs as of 19:00 on 9 June 2015.

<http://eq.nitc.gov.np/>

Health Sector Response Situation Update Report 2015.06.02

<http://heoc.mohp.gov.np/health/index.php/daily-situation-updates/73-situation-update-20th-jestha>